

交通事情

田舎暮らしは車が必須！

山間部での暮らしは、必然的に長距離移動になります。くろほね暮らしでも、自家用車を持っていないとちょっと厳しいかもしれません。

でも、車が無いからといってあきらめるのはまだ早い！黒保根には、「デマンドタクシー」という乗合タクシー制度があります。最寄駅まで行ければ、あとはわたらせ渓谷鐵道を使ってまちなかまで行くことができます。



普段の移動はマイカーが便利

ちょっとスーパーまで、子どもの学校への送迎、郵便局まで…都市部だったら徒歩や自転車で十分な移動も、黒保根ではかなり難しいです。

試しに車の移動でどのくらいかかるかというところ…

黒保根支所(黒保根町水沼)から

- ・スーパーマーケット→約15分(8.8km)
- ・総合病院→約20分(11.5km)
- ・ホームセンター→約25分(12.6km)
- ・黒保根学園→約3分(1.7km※ただし登り坂)

冬はスタッドレスタイヤ着用で

積雪量は黒保根町内でもどこに住むかで全く違いますが、冬はスタッドレスタイヤが必須です。

雪が少ししか降らない日でも、翌日以降に日陰を通ると路面が凍結していることもあります。

畑や田んぼで作業をする人の中には、「軽トラ最強！」派もいます。



電車移動ならわたらせ渓谷鐵道

となりまちまでならわたらせ渓谷鐵道、首都圏まで出かけるなら、東武線を使うのが便利。東武線の特急を使えば浅草まで乗り換えなしです。



デマンドタクシー(乗合タクシー)を活用しよう！

1回
300円

発着地の
指定可

- ▶お友達の家へ
- ▶部活の試合で学校へ
- ▶ちょっと都会へ買い物に…



路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通機関です。運行エリアは黒保根町内のみで、事前予約により運行します。

発着地を指定できます！



1回の乗車運賃(1名につき)

中学生以上	300円
小学生・障がい者	150円
未就学児	無料

たくさん乗るなら回数券がお得♪

小学生・障がい者	3,000円(22回分)
70歳未満	3,000円(11回分)
70歳以上	1,500円(7回分) 3,000円(15回分)

詳しい乗り方等は、市のホームページへ
<https://www.city.kiryu.lg.jp/kurashi/kotsu/taxi/1000980.html>



デマンドタクシー(乗合タクシー)のイメージ

デマンドタクシーを利用するBさんも乗せて…



自宅近くで迎えに来てもらって、Aさん一家は家族旅行に出発！



デマンドタクシーを電話で予約いつ/どこから/どこまで/何人を伝えてください。

※乗合ですので、う回運行することもあります。時間に余裕をもって予約をしてください。



Aさん一家は駅で降りて、わたらせ渓谷鐵道でまちへ！



Bさんを目的地で降ろして…



子育て

田舎で叶える、 ゆったり子育て

子育てするなら、黒保根で。

子どもがすくなくからこそ行き届く、周りからのフォロー。黒保根保育園と、小中一貫の義務教育学校「黒保根学園」。

黒保根の魅力が体いっぱい吸収して、くろほねっ子が育っています。

桐生市全体の子育て応援策

高校生世代まで医療費無料

桐生市内の子どもは、入院・外来ともに、18歳になる年度末まで医療費は無料です。

母乳外来、不妊・不育症治療費助成、 妊婦・産婦健康診査、産後ケア事業

母乳育児指導、不妊・不育症治療を受けた場合に費用の一部を助成するほか、妊婦・産婦対象の健康診査や産後ケア事業等を実施。

妊娠～産後、子育てまで手厚くケアします。

市立小中義務教育学校の通学定期券補助

市内の市立小中義務教育学校に通う場合は、鉄道やおりひめバス(乗合バス)の通学定期券代全額を補助します。



注目!

黒保根独自の子育て応援策

高校生等の通学定期券補助

黒保根在住の高校生等が、通学のためにわたらせ渓谷鐵道を利用した場合に、通学定期券代の一部を補助しています。



広い園庭で思いっきり遊べます! 黒保根保育園でのびのびと

豊かな自然と触れ合い仲間と育ち合う、アットホームな保育園です。



▲園庭で芝すべり



▲春のつくし採り

小中一貫の義務教育学校 黒保根学園でまなぶ9年間

P.14~15も
要チェック!

黒保根小学校と中学校が一緒になって誕生した、小中一貫の義務教育学校「黒保根学園」では、1年生から9年生までが同じ校舎で学んでいます。行事の時は、学園全体で班編成をするため、学年を超えた交流が深まります。

子育てと仕事の両立を支援する 黒保根学童クラブ

黒保根学園の1~6年生の児童は、学童クラブを利用できます。クラブでは、授業の終了後に黒保根学園の余裕教室等を利用して、児童の遊びと生活を支援しています。



▲学園外観 ▼1年~9年生、全学年での赤城山登山

令和4年度開校！

黒保根学園 ってどんな学校？

子育ておまけ



黒保根から世界を見つめ、
世界へ羽ばたく人材を

『英語教育』

『学力向上』

『地域理解教育』

3つの柱を大切に、地域と共に歩む
特色ある教育を目指した学校です。



地域みんなが
育てる学校

地域と共につくる学校 コミュニティ・スクール

市内で初めて「学校運営協議会」を設置。
地域の意見や力が学校運営に反映されます。

英語教育

英語を『話す』より
『好き』になれる環境

黒保根出身で国際的に活躍した事業家一族との縁から
生まれた、都内「西町インターナショナルスクール」
との交流を通して生きた英語を学びます。

学園では教育課程特例校により3・4年生から英語科が
新設されます。英語の授業はネイティブの先生が見て
くれ、1年生から外国語に触れる活動を実施します。
放課後には英会話教室も行われています。

英語は
コミュニケーション
ツールだ！

9年間3ブロック制を実施



前期ブロック（1年生から4年生）

担任の先生を中心として、幼児教育との円滑な接続や
学習習慣の確立など、学びの土台づくりを行います。

中期ブロック（5年生から7年生）

教科ごとに専門の教員が担当し、学びの定着、
拡充を目指します。

後期ブロック（8・9年生）

進路を見据えた学力、社会的自立への基礎固めを行い、
学びの深化、発展を目指します。

学力向上

ひとりひとりに応じた
きめ細かな指導

少人数の良さを最大限に発揮し、学年を超えた交わり
の中で、個の興味・関心に合わせて学習とフォローが
できる体制となっています。

習得した知識を活用し課題解決する生きる力を育みます。
5年生から50分授業が行われ(通常6年生までは45分)、
1年間で約70時間も多くの学習時間を確保。
一人一台タブレットPCとデジタル教科書の活用で
学びを広げ深める学習を行います。

自分で考える力
生きる力を
育みます

地域理解教育

黒保根の豊かな自然や
伝統文化を生かした探究的な学習

地域住民を先生とした、米作りや八木節などの体験
学習を実施します。

赤城山、渡良瀬川などの美しい自然を教材に、町探
検や黒保根再発見学習、地元での職業体験などを実
施します。

学校と町による合同運動会、高齢者との交流など、
地域の皆さんとの合同行事の充実を図ります。



義務教育9年間の連続性を
大切に、発達段階に合わせた
3ブロック制で、個々に応じた
柔軟な教育を推進します

地域に根差し
誇りを持って
この地で学ぶ

まなぶ

住むなら知りたい、 くろほねの歴史

黒保根の由来は万葉集(7世紀後半～8世紀後半)の東歌とされています。

約1300年もの間、地名が残るこの地では、連続と続く人々のいとなみがあります。

歴史年表

7世紀後半～8世紀後半	万葉集に「久路保」が入った東歌が掲載される
慶長5年(1600)	水沼村含む桐生領54か村、関ヶ原の戦のため徳川家に旗絹2410疋を献上
宝暦6年(1756)	関口文治郎、医光寺本堂欄間「二十四孝」を彫る
寛政2年(1790)	関口文治郎、栗生神社本殿を彫る
明治6年(1873)	群馬県第二番小学校となる水沼小学校が設置される
明治7年(1874)	民営初の器械製糸を行う水沼製糸所が開設される
明治12年(1879)	初代群馬県議会議員に星野長太郎が選出される
明治17年(1884)	渡良瀬川の新橋完成、県令楯取素彦が「五月橋」と命名
明治22年(1889)	旧八か村を合併し「黒保根村」が成立
明治23年(1890)	初代衆議院議員に新井毫が選出される
昭和4年(1929)	水沼郵便局が開局。
昭和22年(1947)	カスリン台風により甚大な被害を被る
昭和34年(1959)	星野愷が磁気録音装置を開発
昭和49年(1974)	涌丸ささら舞復活
昭和50年(1975)	前田原獅子舞復活
平成17年(2005)	旧新里村とともに桐生市と合併



くろほね夏まつり
毎年8月15・16日に開催されている



涌丸獅子舞「ささら舞」
八坂神社、医光寺内の赤城神社に奉納される
市指定重要無形民俗文化財



前田原獅子舞
下田沢の十二山神社に
奉納される市指定重要無形民俗文化財

黒保根歴史民俗資料館

昭和59年7月まで村役場だった場所に建っています。町内から出土した縄文時代の土器や、江戸時代の文献、農機具やひな人形、からくり人形などの生活用具、歴史研究団体の研究発表資料等を展示しています。



昔の黒保根村民になれる
なりきりスペースも

黒保根公民館

☎0277-96-2501

黒保根の名誉村民

星野長太郎 水沼製糸所の創設者

弘化2年(1845)生まれ。「国益増進は製糸改良にある」という時論を貫き研鑽を積み、明治7年に民間初の器械製糸となる水沼製糸所を創業。明治9年に米国への直輸出を断行。実弟新井領一郎とともに日本生糸の不評を払拭し信用回復を果たした。県議員、衆議院議員を歴任。郷土及び国家レベルの養蚕産業の振興に尽くした。

新井領一郎 日本生糸の救世主

安政2年(1855)生まれ。英学校に学び、慶応義塾、開成高校で英語の習得に励む。実兄星野長太郎の生糸直輸出の断行にあたり渡米し、日本生糸の不評を拭い、誠実な商法で信用を回復させた。ハル・ライシャワーは孫娘にあたる。昭和14年に米国で没した際、葬儀の日にはアメリカ全土の生糸取引所が黙祷を捧げたという。

新井毫 国会開設運動に尽くした政治家

安政5年(1858)生まれ。少年時、横浜で英語を学び、さらに三大義塾の慶応義塾や共済義塾で勉学に勤しんだ。自由民権を唱えた板垣退助に共鳴し、国会開設運動に奔走。明治23年、国会開設時の衆議院議員に当選。東京の静知社英学校、岡山の津山中学校を経営した教育者でもあった。

星野愷 磁気テープの父

明治42年(1909)生まれ。東京蔵前工業大学(現東京工業大学)を卒業し、助手、助教授、教授となり同大で教鞭をとった。数々の科学的開発で特許を取得。日本のものだけで58件にものぼる。そのうち、立体映画装置、蛍光管の誕生につながる人造偏向板と、磁気録音装置は有名。科学界では、「磁気テープの父」と呼ばれている。

